

# 令和7年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural  
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子  
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	前年度 評価	今年度 評価	現状・課題
保育 目標に ついて	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	以上児がよく話し合いをし、食事のとり方、行事など楽しい企画をしてきている。しかし、行事の考え方がまだ浸透していないのか保護者への配信の内容が「頑張る」というワードがでていたため、その都度話をしている。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にされた保育をしている	B	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	B	
保育 について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	B	ドキュメンテーションの構築ということで、専門性を保護者と共有するために、「幼児の終わりまでに育てほしい姿」の項目にチェックをするようになった。職員もチェックすることで、バランスよく保育を行う気付きになり今後も、保育の専門性を高めていきたい。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	A	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	B	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	A	
食育 について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	B	管理栄養士が新卒ということもあり、現場によく行き、観察をしている。食べることを楽しめる子どもと、そうでない子の差だったり、「食べる」以前の興味・関心をどう育てるかもっと職員と話し合う必要がある。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役員 研修 分担	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	A	今年度は研修コンサルを担当する職員を配置したことで、テーマをより明確にピックアップし園内研修を計画的に行うことが出来ている。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	A	

		評価	評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けて	B	B	2月に保護者アンケートを実施。昨年と比べると、ご指摘というものは少なくなった。しかし、ドキュメンテーションなどの保護者への伝わり方というのが「わからない」という回答が以前よりふえているため、職員にも共有をし、来年度に向け、発信への課題対策を行っていく。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	B	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	A	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底してい	A	A	
開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	A	コロナ禍の影響により交流の機会が限られていたが、今年度は年長児が小学校を訪問し、1年生と交流する機会が設けられ、小学校への期待を高めることが出来ている。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	A	A	
子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	B	A	見学の連絡があった場合には、すべて受け入れ、現在の保育の現場をわかりやすく伝えるようにしている。また、同じ法人内の子育て支援のパンフレットを配布するなどし、地域とのつながりを大切にしたい取り組みを行っている。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	A	A	

### 総合的な現状と課題

1年を通して、各クラス間での情報共有が十分に行き届いていない点が課題として挙げられた。以上児クラスでは、子どもが同席している中での共有となるため、その場ですぐに報告できず、後で伝えることが結果として共有不足につながる場面が見られた。そこで、こどもに聞かれたくない内容については、必要に応じてクラスを離れ、落ち着いた環境でしっかりと話し合うよう提案し、実践している。さらに、職員から「より丁寧に話し合う時間を持ちたい」という声上がり、主幹を含めたミーティングを定期的に行う体制が整えられてきている。今後はミーティングの時間をより有意義なものとするため、話し合いの目的や内容を明確にし、共有の質を高めて行くことが課題である。